

グライスの会話の理論による別役実のコント作品分析
—ディスコミュニケーションに着目して—
An Analysis of Betsuyaku's Conte Works according to Grice's
conversational theory : Focusing on Discommunication

学籍番号：201921626

氏名：大野 優花

Ono Yuka

ディスコミュニケーションに着目して、別役実のコント作品における会話をグライスの会話の理論を用いて分析することでおもしろさとディスコミュニケーションの関係を明らかにできると考えた。意思疎通ができていないこと、会話の格率を遵守していないことをディスコミュニケーションの意味とする。

別役実のコント作品から、コントの中の会話とした場合、第三者の視点から見た場合のどちらか、またはその両方に会話の格率が遵守されていないことを軸として会話を抜粋し、グライスの会話の理論を用いて分析・考察を行った。グライスは会話を効果的に伝達するために、会話をしている相手の発言の目的や方向性を踏まえて、まとを得た発言をするべきであると提唱し、そのために遵守する必要がある格率を会話の格率とした。

分析した結果、ディスコミュニケーションに着目した場合、別役実のコントの持つおもしろさは、三つの種類に分類できることが分かった。その分類は、(1) コントの中の会話とした場合においても第三者の視点から見た場合においても、会話の格率のいずれかが遵守されておらず、会話もうまく行われていない場合、(2) コントの中の会話とした場合では、格率は遵守されており、会話もうまく行われているが、第三者の視点から見た場合は、会話の含みを見ることができるところ、(3) コントの中の会話とした場合においても第三者の視点から見た場合においても、会話の格率は遵守されていないが、会話が成り立っている場合であった。そして、それぞれにおもしろさが生じており、そこにはディスコミュニケーションが大きな役割を果たしていることが明らかになった。

研究指導教員：横山 幹子

副研究指導教員：後藤 嘉宏